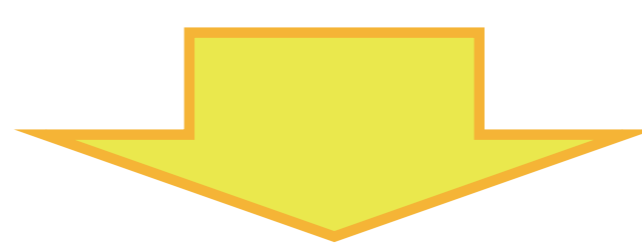


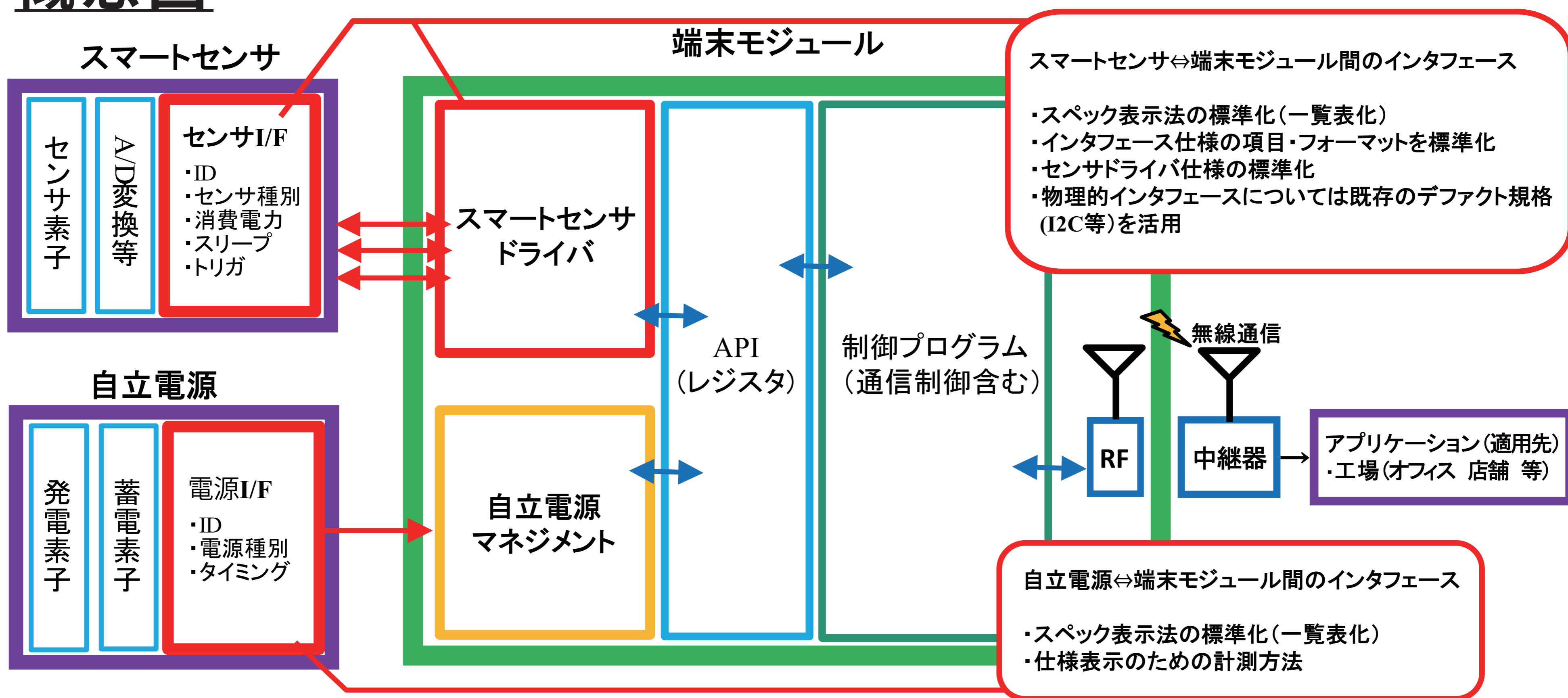
標準化の要請と目的

1. スマートセンサと端末モジュール間又は自立電源と端末モジュール間のソフト的な接続法については標準が存在せず、センサメーカーをはじめ端末メーカーやシステムインテグレータ等が製品開発やシステム開発の都度、相当な時間や費用を掛けて独自のインタフェース作製を行わざるを得ない場合が多く、大きな開発負担となっている
2. インタフェース部分を標準化することで、開発期間短縮による効率化、開発費用の削減が図れ、メーカー等の開発負担が軽減され、高品質な製品・システムが迅速かつ大量安価に市場に供給される
3. 当該ビジネスへの参入者増大によりスマートセンシング&ネットワーク産業の更なる発展・拡大が見込める



このような要請から、GSNプロジェクトの成果を活用したスマートセンシング・インターフェース(SSI)の標準化を図るため、SSN共通プラットフォームのセンサ、自立発電デバイスとのインタフェース標準化に取り組む

概念図



事業概要:

「エネルギー使用合理化国際標準化推進事業(省エネルギー等国際標準共同研究開発・普及基盤構築/省エネルギー等国際標準共同研究開発)」<経済産業省委託事業 H28~30>
グリーンセンサ・ネットワークシステムのセンサ及びプラットフォームのインタフェース等に関する国際標準化

担当:

マイクロマシンセンター: 国際標準化原案作成(SSI国際標準化委員会、専門家派遣)
NMEMS組合: 原案作成のための研究開発(スマートセンサ、端末モジュール、自立発電)